

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



2月におこなわれた黄金崎の松・再生プロジェクト。無煙炭化器で作った炭をマツ林まで運ぶ。

Contents

- 緑の地球ネットワーク第20回会員総会のお知らせ P 2
- 黄金崎の松・再生プロジェクト、自然と親しむ会報告 ... P 3
- 「ポスト改革開放」時代の中国（要旨） P 4
- 西伊豆5月合宿参加者募集 P 6

2014.3
156

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第20回会員総会のお知らせ

日本と中国の関係は冷え込んだままの状態が続いています。世論調査では、日中両国それぞれ9割以上が相手国に対して良くない印象を抱いているという結果がでたとのこと。お互いのままでいいはずがないのは明らかです。政治の冷え込みが民間にまで影響するという事態は日中双方にとって有益ではありません。こういう時期だからこそ GEN の続けてきた民間の交流が意味を持ったものになってきます。

2011 年からスタートした緑の地球環境センターは井戸、管理棟などのインフラが整い、苗圃、生態植林見本園、有用植物見本園の整備が着々とすすんでいます。また、南天門自然植物園はナラなどの落葉広葉樹が立派に成長しており、こういった成果が中国でも高

く評価されています。報道では伝わりにくい大同の現地のようすに触れていただくためにも、ぜひ総会にご参加ください。

会員のみなさんには後日資料をお送りします。

【緑の地球ネットワーク 第20回会員総会】

○日時：6月14日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時

◇講師：調整中です。

○会員総会：15時20分～16時40分

○場所：大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室（大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階 tel.06-6345-5000 JR「大阪」駅／「北新地」

駅、各線「梅田」駅下車）
○総会終了後に懇親会を予定しています。



GEN ワーキングツアー 中止のお知らせ

残念なお知らせですが、4月に予定していた GEN のワーキングツアーは参加希望者が集まらず、催行中止となりました。

いままでツアー参加を募集して中止になったことはなく、今回が初めてです。日中間の政治の冷え込みが GEN の活動にも影響しているのかもしれませんが、今年8月にはスタディツアーを開催しますので、ぜひ多くのかたに参加していただきたいと思います（ツアー案内は7ページに掲載）。

いまずぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）
一般会員 12,000 円
家族会員（同居の家族2人目から）

6,000 円
学生会員 3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）1,000 円
団体会員 12,000 円
賛助会員 100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GEN への寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

* 緑化基金の 20% は事務管理費になり

ます。

■絵はがき『黄土高原の花』
8枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてています。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。未使用切手也大歓迎です。

■外国コイン・商品券など回収中

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

【GEN への寄付は税制上の 優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官に認定された認定 NPO 法人です。（期限は 2014 年 5 月 31 日まで）。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくは GEN までお問い合わせください。



報告 黄金崎のマツをみんなで守る

藤原 國雄（GEN 世話人・宇久須まちづくり協議会）

2 月 20 日～23 日の日程で黄金崎の松再生プロジェクトがおこなわれました。総勢 100 名が参加し、マツの手入れに汗を流しました。プロジェクトの様子は静岡のテレビで放映されるなど注目を集めています。



黄金崎の松再生プロジェクトが終わりました。

宇久須まちづくり協議会と国際ボランティア学生協会（IVUSA）が主催となり GEN が共催となったプロジェクトでした。近隣の農業高校の高校生、地元住民など総勢 100 名によるプロジェクトでした。

あらかじめ小川顧問に手当をす

るマツと伐採するマツに仕分けしていただき、林床におちていた枝と放置間伐材で約 500kg の炭を焼いて粉碎しておきました。

プロジェクト当日は、マツの木の周囲半径 1m ほどの表土をはぎ、直径 30cm ほどの穴を掘り、松の根をさがして、剪定ばさみで切断し、炭を入れてその上にアミタケ、ショウロ、ヌメリイグチなどのマツの菌根菌の胞子液をジョウロでまき、その上を川砂でふさぎました。同時に土が露出するように、松林の林床に落ちている松葉や腐葉土をかき集めて山にして積んでおきました。また風倒木は IVUSA の学生がチェーンソーで切断してくれました。

このプロジェクトに駆けつけてくださった 52 名の学生をおもてなしするように、ダイコンや漬け物などの提供、イノシシの骨や肉の提供、そしてそれを調理してくださるお母さん方の協力、また休耕田で私が栽培したカボチャをスープにして提供してくださった方がたなど、地域がひとつになるきっかけになったプロジェクトだと思いました。

助成金が 決まりました

公益財団法人イオン環境財団の 2014 年の環境活動助成として GEN の「山西省大同市における森林再生のための苗圃運営」150 万円が決定しました。



報告 冬の里山を歩いて－自然と親しむ会報告

宮本 敏幸（GEN 会員）

1 月 26 日、自然と親しむ会「里山の成り立ちを見に行こう」をおこない、11 名が参加しました。森林総合研究所関西支所の大住克博さんに案内していただき、冬の里山歩きを楽しみました。

今にも泣きだしそうな寒空の中、黒川地区を散策した。

国道 477 号線から、妙見ケーブルへの曲がり角を、山手にすこし登ると、地元の人が、椎茸用の原木を切り出していた。その少し上は、あちこちに「台場くぬぎ」が見受けられた。

森林総合研究所関西支所の大住克博さんに「台場くぬぎ」について、解説していただいた。「台場くぬぎ」とは、地上 1～2m の高さで、幹を伐り、そこから新たに芽が出てくる枝（萌芽・ひこばえ）を大きくしては伐採を繰り

返す。このため、土台は、いびつに太く、ずんぐりしている。萌芽更新が早いことや、シカの被害から守ることなどから、広まったと言われているそうである。伐採されたくぬぎは、茶道などに使用される「菊炭」になったりする。燃料として使うにはもったいないような、きれいな形で、インテリアにも消臭用にもなる。

近く、の、焦げ臭いにおいと白煙でわかる無人（？）菊炭屋今西さんでは長さ 6cm くらいの菊炭を自然保護活動の一環として、1 個 100 円以上のカンパで譲ってもらえる（お金は缶に入れる）。

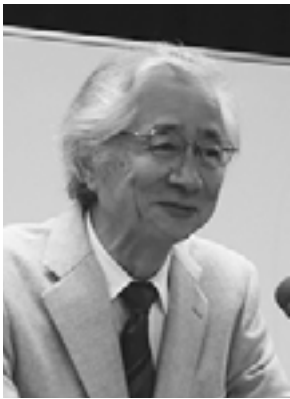
生活様式やエネルギーの変遷のため、薪炭の利用・生産は減少し、くぬぎ林も少なくなっている。近くの山肌も、緑のところや落葉樹だが枯葉をつけているヤマコウバシなどがあつたり、ミニパッチワーク状態の黒川の山やまであった（角川 one テーマ 21 発行 藻谷浩介著『里山資本主義』P38～P42 参照）。



「ポスト改革開放」時代の中国－習近平・李克強政権はどう動く－

加藤千洋さん（同志社大学大学院教授 元朝日新聞編集委員）講演要旨

2月26日（水）、大阪市立総合生涯学習センターで加藤千洋さんに「ポスト改革開放」時代の中国についてお話しいただきました。70名が参加し、真剣に耳を傾けました。講演後の質疑もたいへん興味深かったのですが、ここでは講演の要旨のみを掲載します。（文責＝編集部）



中国の特派員生活7年間で私が得た最大の教訓は、中国についてはたとえ明日のことでも断定的に「こうなる」と言うてはいけないことです。中国の政治は一寸先は闇で、合理的な判断では予測できないことが起こります。今日もかなり無責任な作業だと自覚しつつお話ししたいと思います。

【第5世代リーダーの特徴】

習近平・李克強政権はこれまでのリーダーとは相当違った特徴があると思います。まず、文化大革命中に農村などへの下放を経験した世代が初めて中国のトップリーダーになりました。いまの中共中央政治局常務委員7人中5人が2年以上の下放経験者です。もうひとつは地方でキャリアを積み上げてきたという点です。習近平は精華大学を卒業してほんのしばらく軍の機関にいた後は、河北省、福建省、浙江省で仕事をし、上海市のトップをへて中央に登りましたが、大部分のキャリアを地方で積んでいます。なかでも注目すべきが福建省での17年間で、福州市の郊外に工業団地を造り、台湾企業の誘致を成功させたことです。このときに台湾人脈を築いており、今後の中台関係にどう影響するか注目されます。また福建省は広東省と並ぶ華僑送り出しの地方で、世界各地に福建省出身者が華人世界を作っています。これまでのリーダー以上に台湾人脈、華人人脈をもった新しいタイプの指導者だと言えます。付け加えれば2002年、福建省長時代に姉妹都市の沖縄県を訪問しています。中国の最高指導者で初めて沖縄を自分

の目で見たことがある人です。今後どんなことに繋がっていくのか、パズルとしては面白いのではないかと考えています。

【習近平の「中国の夢」】

習近平は2012年11月の党大会で総書記になり、翌年3月の全国人民代表大会で国家主席になって、名実ともにトップリーダーになりました。そのときの演説でたくさん使ったフレーズが「中国の夢」です。習近平が作った党大会の政治報告は、2020年のGDPと国民所得を2010年比で2倍にすると掲げています。すごくわかりやすく国民を鼓舞するスローガンですね。これが実現可能かどうか。7%成長を10年続ければ2倍になるわけですから、達成可能な目標だという楽観的な見方が多いようです。国際機関なども2020年までは比較的高い成長を維持するのではないかと見ています。

ただ、楽観論だけでこの国を見るのは危険だというのが教訓の一つです。中進国の罠、ミドルインカムトラップですね、新興国が経済発展を重ねて中進国となりますが、そこから先進国へ至る道は簡単ではありません。生産性を日々引き上げる努力を続けてはじめて先進国への門が開かれます。中進国の罠にはまらず、アジアで先進国経済を達成したのは、日本、シンガポール、韓国、台湾しかありません。中国が先進国経済のレベルに到達できるのか、これは慎重に見たほうがいいと思うのです。

2013年末の中国の国民1人当たりのGDPは6,000ドルで、ものすごいスピードで上昇しています。みなさんが北京から大同に行かれば実感できると思いますが、中国はばらつきが大きく、平均値では測れない国です。中国のこれからの道を私は勝手に「ポスト改革開放」時代と名づけたのですが、35年間続いた改革開放も賞味期限切れした部

分があり、さまざまな歪み、負の面を作りだしています。これは政治リーダーが真剣な気持ちで臨まないといだめだろうと思います。資源やエネルギーを浪費し、量的拡大だけを図ってきた従来のやり方を変え、質を重視する安定した経済成長モデルを作りださなければならぬのですが、これは難しい事業です。そういう意味で私は、いま中国は改革開放の岐路に立っていると認識しています。

【「強い国家」と「弱い社会」】

中国は国家としてみれば大国というより強国の顔を持っています。しかし国民一人ひとりの生活を見ると異なった様相が見えてきます。それを私は強い国家と脆い社会と表現しています。強い国家ということでは、拒否権を持つ国連の安保理常任理事国5か国のうちの1つです。また核保有国で、すでに1964年に核実験に成功しました。軍事費はアメリカについて世界第2位です。無人ですが月面に探査機を送り込みました。サイバー空間でもさまざまな技術を磨いています。

経済ではご承知のとおりGDPにおいて日本を追い越して世界第2位になり、いまや日本の倍近くになりました。昨年の自動車の販売台数は2000万台を突破しています。そのほか大型の家電製品なども世界の生産量。世界の粗鋼生産量の半分以上を中国が占めます。貿易も昨年アメリカを追い越して世界第1位になりました。国として見ればまさに強国です。

あわせて強調したいのは、国民の生活の足元を見るとまだ弱々しい風景が見えてくることです。脆弱さを秘めた社会というのが中国の現実ではないかと思っています。

21世紀に入って10年の間、中国はお湯が沸きかえるような、人類史上ほかにない経済の沸騰した期間でした。たった10年でGDPは4倍になり、貿易量

は5倍になりましたが、同時に問題が沸騰した10年でもあります。格差の拡大、汚職腐敗、集団抗議事件、国進民退、民族問題、少子高齢化、環境問題、エネルギー問題などなどさまざまです。

なかでも国民がいちばん我慢ならないと考えているのが格差の問題だと思います。権貴資本主義という言葉があります。権貴とは権力をもつエリート層のことですが、既得権益を持っている人たちに有利な社会構造になっています。習近平・李克強政権はこれにどう対処しているかという、対症療法です。国民の不満をそらすために就任以来汚職腐敗の取り締まりに力を入れています。習近平のスローガンは「蠅も叩くけれども虎も叩く」というものです。蠅は小者の汚職役人のことで、虎は党の中央委員や政治局常務委員などのことです。しかしそれだけでは構造的な問題は解決されません。

つぎに急速な少子高齢化があります。改革開放政策とほぼ同時に始まった一人っ子政策で極端な人口抑制策をとった歪みが現れてきています。中国のこの間の驚異的な経済成長を支えてきた若手の労働力が減り始め、2015年くらいから生産労働人口が減少する時期に入ります。そこで夫婦どちらかが一人っ子であれば2人目を産んでもよいという緩和政策がとられました。しかしこの歪みをならすには時間がかかり、これまた大変な作業です。

ポスト改革開放期の中国がこうした大きな矛盾を癒して、国が富むと同時に民も富むという発展モデルにこぎつけられるかどうかが今後の大きな課題だと思います。

【対外政策のキーワード】

現在の日中関係は深刻な問題ですが、今日は習近平体制の対外政策はどういう方向に向かいそうなのか考えてみたいと思います。思いつくキーワードを5つあげると、どうしようかい 韜光養晦 ゆうしやうきい 有所作為、核心利益、中国の夢、海洋強国、新型大国関係です。韜光養晦とは能ある鷹は爪を隠すという意味で、有所作為とはやるべきことはやる、という意味です。

90年代以降の中国の外交路線を象徴的にあらわすキーワードが「韜光養晦有所作為」でした。天安門事件で西側

諸国から経済制裁を受けてかなり苦しい時期に、世界の先頭に立とうなどという野望を持たず、自分の実力なりにしっかり経済建設をして、力をつけたらやるべきことをやればいいという意味を込めて鄧小平が語ったとされています。協調的外交路線ですね。これが90年代以降ずっと続いてきました。

ところがこの路線から中国が離れようとしているのではないかと世界で言われ始めています。2010年に海保の船と中国漁船の衝突事件がありましたが、2010年以降の尖閣問題に対する中国の出方、そのほか南シナ海、南沙諸島などでトラブルを起こしている問題、防空識別圏の設定、そういう一方的な対応を見ると、やっぱり韜光養晦路線を卒業してしまったのかという感じがするわけです。

こうした強気の外交姿勢を見ていると、気になるのが「核心利益」という問題です。2009年あたりから中国の研究者、政治当局などからこの言葉が使われ始めました。台湾、チベット、新疆ウイグル自治区、南シナ海は一步たりとも譲歩できない死活問題、つまり核心的利益で、中国共産党が支配する政治体制、社会主義体制、今後も経済発展を維持するという目標、それから領土や主権の問題を守るのは中国にとって核心利益だ、という定義です。尖閣諸島を核心利益に含めるかどうか、政府の高官が言及したことはまだないと思いますが、今後入れる可能性は高いですね。

中国の外交が低姿勢路線から強硬路線にいつごろ変わってきたのか。私が注目するのは2008年から2010年の間です。北京オリンピック、上海万博があり、リーマンショックからいち早く立ち直るなど世界から頼られる中国経済という絵が生まれました。いよいよ自分たちが頼られる時代だ、自分たちの国益を最大化するために言いたいことを言っていんじゃないか、と社会の空気も変わってきました。

2009年に世界各地に駐在する大使、主要都市の総領事を呼び戻した在外使節会議の場で、中長期的な外交方針について議論を



行なったさい、胡錦濤が「堅持韜光養晦 積極有所作為」という発言をしたとされています。4字を加えただけですが、これが重要な意味をもっていて、韜光養晦は基本的に堅持するが、やるべきことをもっと積極的にやっていく、という意味です。それを聞いて軍関係機関、エネルギー機関などが勢いづいたんですね。逆に国際協調派の外交部の力が弱まる。ちょっと心配になるわけです。

習近平は、所得倍増計画のほかに、海洋強国ということを強調しています。中国は歴史的に見ても大陸国家で、海に出ることを禁じていたことさえあります。軍も陸軍中心でした。ところが改革開放で重要な施設が沿海部に造られたので、それを守る必要がある。不足するエネルギーを確保するために海底資源を開発しないといけない。国民の栄養のために水産資源を利用しないといけない。そういう理由から海洋への進出があり、さらに海洋強国を目指すというのが習近平のアピールになっています。

そんなことを考えると、尖閣問題は、ここまで上がった水位を下げるのはむずかしく、長期に付き合わないといけない問題になったと思うのです。私たちが考えている以上に国際社会の目は南シナ海に注がれており、世界経済の成長センターとしての日中韓3か国を見守っているわけです。安定した状況を作らないといけないのに、そうでない現状がある。世界中が不安なわけです。そういうなかでアメリカがどうい



役割を果たすかも重要ですね。昨年6月に習近平とオバマ大統領が8時間に渡って会談し、新型大国関係を模索することで一致したと言われます。スタインバーク元国務副長官は新興国の



台頭と既存の大国は必ず衝突するので、そうならないようマネージし、リスクを管理するというのが新型大国関係だと述べていました。抑制のきいた大人の対応ができてほしいですが、米中関係もそう単純ではない微妙な関係です。

【冷静な外交努力を】

矛盾という言葉がありますね。どんな盾をも突き通す矛と、どんな矛にも負けない盾を同時に売っている。中国が新兵器の矛を出してきたら、日本はそれ以上の盾を作って倍返しだ、というようなやり方では問題は解決できないでしょう。冷静な外交努力が必要だ

と思うのです。安倍さんは積極的平和主義と言っていますが、中国、韓国に対して単に門戸を開いている、いつでも対話に応じるというだけでなく、それを実現するための環境作りに半歩でも前に出る必要があるんじゃないでしょうか。

アベノミクスも4月に試練の時を迎えますが、3本目の矢は国際マーケットでは迫力不足だという評価ですが、中国との関係をよくすれば経済効果も大きいと思うのです。春の訪れとともに、日中韓の関係が少しずつ氷が融けていくことを心から願っています。

参加者募集 西伊豆5月合宿 参加者募集

恒例となりました関東ランチ主催の西伊豆5月合宿を、今年もバージョンアップしておこないます。現地では宇久須まちづくり協議会が主催してマツ林の森林再生事業がおこなわれ、国際学生ボランティア協会の50名を超える学生が参加するなど西伊豆のあたらしい動きにもふれていただきます。

宿泊は関東ランチ宿舎となりますが、民宿の利用も可能ですのでご相談ください。

○日程：5月9日（金）17時ごろ～11日（日）13時ごろ

※現地集合、現地解散。途中参加、途中離脱、後泊も可能です。事前にご相談ください。

○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須 交通費は自己負担。以下は東京からの交通手段例です。

- 1) 高速バス（新宿－修善寺）＋路線バス約7,800円
- 2) JR東海道線（東京－三島）＋伊豆箱



根鉄道＋路線バス約8,800円
3) 自家用車（東名沼津インターから1時間半）駐車料金不要

中部、関西西方面からは清水－土肥のフェリーを利用する方法もあります。

○内容：マツ林再生の作業、無煙炭化器による炭焼き、再生休耕地でのヤーコンなどの植付け、地元学セミナー「カツオ」など

○資格：どなたでも参加できます（GEN会員に限定しません）。子どもも歓迎

○参加費用：8,000円（宿泊2泊、食費、保険料など。変更の可能性があります）

○定員：15名（先着順）

○参加申し込み：参加者氏名、性別、年齢、住所、代表者の合宿当日の携帯電話番号を明記のうえ、e-mail もしくはハガキでお申し込みください。
e-mail : matizukuri.college@gmail.com

ハガキ：〒184-0013 小金井市前原町3-23-23 上田信宛

○申込み締切り：4月20日（日）

黄土高原史話 <67>

虎は都の西に置くべし

このシリーズ、何回まで、という制限なし。そこで、ダラダラと続けさせてもらうとして。

特に今回は紙数が尽きたので、言い足らぬ箇所が少なくない。トラについては、なおのこと。GENの面々に大トラになる御仁が多いから、というわけではないけれど。

さて、前回も引用したが、『水経注』巻13に、
如渾水（御河）はまた南して分れて二水と為る。一水は西して南に出でて屈れ、北苑の中に入り、諸々の池・沼を経て、また南して虎園を巡る。東魏〔北魏〕の太平真君五年（444）、これを成りて以て虎を牢む。

と。何度かふれたように、『水経注』は北魏に仕えた酈道元（469?～527）著すところの地理書だが、この名著につき優れた校訂・注釈を施したのが、楊守敬（1839～1915）・熊会貞（1860～1936）師弟の労作『水経注疏』。同じく両家の手になる『水経注図』は、『皇朝中外一統輿図』などを底図に用い、『水経注』の叙述に沿って描かれたもので、同書を読むさい至って便利。ただし、楊・熊両氏は図のごとく、平城を内城・外郭の二重城郭式と考えて、内城の外側に外郭を想定しているが、この外郭線は架空のもの。内城の四面も文献に基づくもので、城壁が見つかったわけではない。だだ一カ所、大同駅の北側の盛り土は内城の北壁、と発掘の結果わかっている。また、駅の東に整然と並ぶ礎石は、北魏の宮殿跡だとも。

さて、上掲の文と所掲の「平城図」を交互に参照あれ。

図の上端に記された如渾水は、今の御河。南下してきて白登山の西を通るが、近くにGENの緑の地球環境センターがあることは、ご存知のとおり。その手前で如渾水と分かれた枝川が、しばらく西行したあと湾曲しつつ南に折れ、北苑を過ぎ、池と沼の間を通って出てきたところに、前回以来問題の虎園がある。つまり、平城の西側に当る。

谷口 義介（GEN 会員）

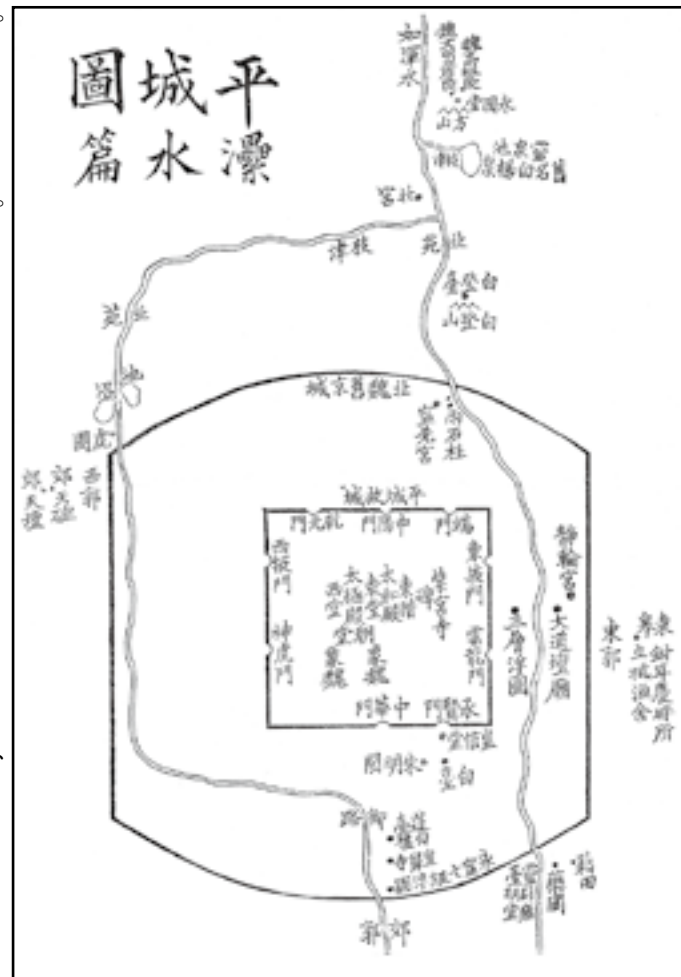
前回ふれたごとく、秦の都咸陽の西に周囲35歩の虎園が造られ、前漢の長安城の西にも虎園が設けられていた。この点、秦・漢・北魏と共通する。ではなぜ常に虎園は都の西にあったのか。

北の虎は長白山の金日成（1912～94）、南方はマレーの虎の山下奉文（1885～1946）。しかし、虎は西に居るべき定めがあった。

図の中心の平城故城を見てほしい。西壁にやはり神虎門あり、対する東壁に雲龍門があるのが第一ヒント。第二ヒントは、わが高松塚古墳。石室内部の全面に漆喰を塗り、東壁中央に青龍、西壁中央に白虎、北壁に玄武、（南壁には朱雀が描かれていたはずだが剥落）の四神が配されている。つまり、東＝青龍、西＝白虎、南＝朱雀、北＝玄武という四神のうち、虎は西方の守護神だったわけ。虎園が都の西

側に設置されたのは、その故にほかならない（大阪人にとって西宮の阪神は守り神！）。

ちなみに、四獣を四方に配当する観念は先秦時代の陰陽五行思想に出て、この四獣はほんらい四つの星座。後漢・王充の『論衡』物盛篇に、「天に四星の精あり、降りて四獣の体を生ず」とある。漢代の瓦当（軒丸瓦）・銅鏡・墓室・葬具の装飾として四神紋が多く見られ、唐代初期まで流行した。



参加者募集

GEN 自然と親しむ会

春の大和川で自然観察

春の大和川周辺で自然観察をしませんか。ヒキノカサなど大阪ではここでしか見ることのできない植物を観察しましょう。

○日時：4月5日（土）10時～15時ごろ※小雨決行

○集合：近鉄道明寺線「柏原南口」駅に10時

○解散：地下鉄谷町線「八尾南」駅で15時ごろ

○案内：梅原徹さん（大阪自然史センター理事）

○持ち物：弁当、飲み物、敷物、あれば植物図鑑、帽子、雨具、歩き

やすい服装・靴

○参加費：700円（保険料を含む）

○定員：30名（先着順）

○問合せ・申込み：4月1日までにGEN事務局まで



参加者募集

2014 黄土高原 スタディツアー 予告

8月のスタディツアーの日程が決定しました。初秋の大同に咲く鮮やかな花たちが迎えてくれます。学習院、学習院女子、立教の各大学の学生も合流予定です。

○日程：2014年8月23日～29日（6泊7日）

○訪問地：中国山西省大同市（北京経由）

○費用：未定（昨年実績 一般169,000円、学生149,000円）

○定員：30名程度

○最少催行人員：12名

詳細は5月号でご案内します。

情報ひろば いうなかつち

大阪大学「未来共生」セミナー 世界の今と未来を考えよう

国際協力の場で活躍する方がたを招いてのセミナーです。

○日時：4月12日（土）14時～17時40分

○会場：大阪大学豊中キャンパス大学会館講堂（「石橋」駅徒歩15分）

○参加費：無料

○講師：田中明彦氏（JICA 理事長）、知花くらら氏（国連 WFP 日本大使）、小田兼利氏（日本ポリグル会長）、工位夏子氏（NICCO ヨルダン事務所代表）

○主催：大阪大学未来戦略機構第五部門 未来共生イノベーター博士課程プログラム

○後援：JICA 関西、国連 WFP

○申込み：ホームページ（<http://respect-seminar.umin.jp>）から登録ください。

○問合せ：株式会社アカデミック・ブレインズ 大阪大学未来共生セミナー係 fax. 06-6949-8138 tel. 06-6949-8137 e-mail: respect-seminar@academicbrains.jp

自然観察インストラクター 養成講座

身近な地域で自然観察会を開くボランティアリーダーの養成講座です。

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

○日程：4月5日～10月26日（全27回）

○参加資格：18歳以上。原則としてすべてのプログラムに参加できるかた。

○参加費用：29,000 円（教材費、保険料を含む。宿泊研修の宿泊費、食費等が別途必要）

○定員：25 名

○申込み方法：はがき・e-mail に氏名（ふりがな）、性別、年齢、住所、電話番号を明記し、下記まで。

○主催・問合せ・申込み：大阪自然環境保全協会 自然観察インストラクター養成講座係（〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: inst@nature.or.jp）

トヨタ財団アジア隣人プログラム 特別企画成果報告会

民間国際協力団体が描く 未来への展望

アジアで活躍する国際協力 NGO が活動の歩みを振り返り、展望を発信します。

○日時：3月28日（金）成果報告会 10時～12時、懇親会 12時～13時

○会場：如水会館3階「松風の間」（地下鉄「神保町」駅 A9 出口徒歩3分）

○定員：50 名（参加費無料）

○成果報告・コメンター：鈴木真里氏（アジア・コミュニティ・センター 21）、白幡利雄氏（シ

ャプ ラニール＝市民による海外協力の会）、佐藤真美氏（シェア＝国際保健協力市民の会）、長畑誠氏（あいあいネット）熊岡路矢氏（日本映画大学教授）、山口誠史氏（JANIC 事務局長）

○主催・問合せ・申込み：公益財団法人トヨタ財団 国際助成グループ（笹川、青尾）広報グループ（本多）e-mail: asianneighbors@toyotafound.or.jp tel. 03-3344-1701 fax. 03-3342-6911

土佐文旦をどうぞ

土佐の春の香りをお楽しみください。

◇土佐文旦

A 3.4L 5kg 6～9玉 4,000 円

B 2L 5kg 10～11玉 3,500 円

C L 5kg 12～13玉 3,000 円

D M 5kg 14～15玉 2,500 円

送料別途：関西 630 円、関東 840 円、北海道 1,050 円（20kg まで）10kg 箱もあります。

○ご注文は下記まで

【田中農園】田中隆一

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内 203 tel./fax. 0887-29-2500 e-mail: tanakan3@cronos.ocn.ne.jp

※売上げの一部を寄付していただいています。ご注文の際「GEN の紹介」とひとこと添えてください。